

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2395700186		
法人名	社会福祉法人 成仁会		
事業所名	グループホームメドックガーデンビレッジ緒川(西館)		
所在地	愛知県知多郡東浦町大字緒川字栄39番地1		
自己評価作成日	令和1年10月23日	評価結果市町村受理日	令和元年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	令和元年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度のテーマはこれまでやってきた理念の中からさらに絞り込んだ「尊厳の保持」と、人として必要な「水分の大切さ」を挙げ、それぞれ具体的に2ヶ月ずつテーマを設けて取り組んでいる。毎月ミーティングでテーマについての意見交換を行い、反省点は見直し良かった点はスケジュールに組み込み習慣化出来るようにしている。もう一つは認知症対応型デイサービスとの交流企画を実施し、利用者のみならず職員同士の交流を通じて刺激し合えるようにしている。ホームの中だけでなく家族との繋がりがも大切に交流会や各種イベントには出来るだけ参加して頂けるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

デイサービスと保育所が併設された当事業所は、自然に囲まれた静かな環境にある。特別養護老人ホーム等の施設を隣敷地に持つ社会福祉法人であり、そのバックアップは、豊富な研修や学習機会、又、他部署による介護技術OJT等と心強い。基本理念の下、毎年度ホーム独自にテーマを設けており、今年度の2大テーマの一つ「水分の大切さ」では、摂取量をデータ化して個々の状態を把握し、個別支援に活用している。また、便秘解消やBPSDの軽減効果が認められている。「尊厳の保持」では、接遇マナーを重点的に「言葉遣い」等、更にテーマを細分化して集中的に実践したり、入居者の言動の真意を職員個々が考える機会を設ける等している。このことにより、職員の意識向上のみならず、人と人の関係性に気づきを得る等、課題発見や問題解決のヒントの獲得につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は新人研修で取り上げられたり、施設内研修で振り返りテストを行うなど意識する場面が多い。	理念は毎月のミーティング時に振り返りを行って、浸透を図っている。外部へも、運営推進会議や家族会の際に説明している。また、パンフレットに掲載し周知している。毎年度、基本理念を基にテーマを決めて強化している。今年度は「水分の大切さ」と「尊厳の保持」を設定して、更に2ヶ月ごとに具体的なテーマを絞り実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣事業所との交流を行ったり、法人全体の祭りに一般の方も参加して頂いている。	基本理念の一つでもある「地域資源の活用」として、地域情報を運営推進会議出席の地域の代表者等から得て利用しており、その出かけ先で地域の方と交流している。法人主催のメドック祭りに地域住民の参加がある。併設の保育園児との交流や、地元中学の職場体験受け入れも継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に向けてとなると難しいが家族に対しては話し合いの場がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催されており、議事録は現場でも閲覧されている。	家族、地域住民、副区長、民生委員、地域包括支援センター担当職員、更に地域のグループホーム管理者のメンバーで2ヶ月に1度開催している。活動報告やヒヤリハット、事故報告を行い、意見交換をしている。前回会議に挙げた質問や意見に対して、改善点等を結果報告しており、会議をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密にはあまりできていない。空き状況の確認や事故報告など必要時報告は管理者が行っている。	東浦町主催の産業まつりにブース出展している。運営推進会議の議事録は郵送にて報告している。実践者研修へ、今年度は2名受講している。ホームの納涼祭へ地域包括支援センターの参加があったり、当センター主催の研修へ職員が参加する等、協力関係がある。今年度は認知症研修でVRを体験している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックではあるが、身体拘束については研修や会議で取り上げられ、現在行っている者はいない。	法人研修にて年に1度は研修を実施している。スピーチロック廃止に向け丁寧な言葉遣いの徹底を実践している。社会の動向に注意し、虐待等の報道を契機にストレスチェックを実施して、職員のメンタルヘルスケアに取り組んでいる。どこまでが行動の制限となるかを常に考え、ミーティング等で事例検討を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議で取り上げられ、不適切な介護について意見交換をした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象者が不在な為、あまり理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は管理者が行っている。事前に情報は得られるようにしている。研修で重説の読み上げを行うが覚えていないか不明		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に都度要望を受け対応している。家族交流会や家族会などで意見交換する場もある。	年1回の家族会にて、ホームの取り組みや事前アンケート結果を報告し意見交換等をしている。また、家族交流会を年2回実施し、バイキング会食や遠出をして親交を深めている。多くの家族の来訪があり、意見聴取の機会は多くある。月に1度おたよりを発行している。玄関には意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の取り組みに関しては意見交換しているが、運営・経営は上の判断に寄るところが大きい。メドックボイスの活用はある。	月に1度ミーティングを実施する他、委員会会議も開催し、意見交換をしている。法人の取り組みにメドックボイスがあり、そこでの意見提案は法人上層部へ届き、各部署へ回答が配布されている。水分摂取量を上げるために、職員からの提案が採用されサービスに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアファイルの活用や面談の機会を作っている。個々の事情などは比較的柔軟に対応してもらっているのではないかと。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の内部研修やスキルアップ研修、その他実践者研修なども受ける機会がある。VR体験も実施した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他法人のグループホームと交換研修あり、貴重な意見を頂いた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が聞き取りに行き、現場に周知している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が聞き取りに行き、現場に周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者が聞き取りに行き、現場に周知している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や洗濯など家事活動を一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診や外出などに家族様にも関わって頂く事で本人様の今の状態を知って頂く。交流会などで話し合える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所との関りはあまり持っていない(覚えていない)。旧友の方が来訪される利用者様はいる。	外部の方でも気軽に来訪しやすい雰囲気作りがなされており、家族アンケートでも評価されている。デイサービスを併設していることで、伴侶や昔の知人と交流を継続している方がいる。入居時には、面会機会を多く持つてほしい、と家族へ働きかけ、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操に皆様一緒にやって頂いたり、全員での外出企画など互いに関われる機会はある。中には関係が上手くいかない(そりが合わない)方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後はあまりお会いする機会はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを通じて個々の暮らしについて話し合っている。	「スキルアップ15」(15分研修)の中で、思いを止めないことをテーマに、発言や行動の動機を考え、本人本位のケアを考える時間を設けている。入居者へ担当職員を配置している。モニタリング結果や、本人や家族から得られた情報から思いや意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	好みや以前の生活など家族様に伺う機会があれば尋ねている。本人様に尋ねても不明な事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスで振り返り情報共有している。日々の記録も出来るだけ入れる努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まず各居室担当がモニタリングし、カンファレンスで全体意見をまとめる。その後計画作成担当がプランを作成。家族様には担当者会議で直接話し合っている。	プランは、要介護認定更新時期に合わせて見直しをしている。見直し時期の約1か月前に、担当職員がモニタリング結果を評価し、職員全体カンファレンスでまとめている。それを基に計画作成者が原案を作成している。そして家族に来所いただき、共に協議しプランを作成している。モニタリングは半年ごとに実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時記録に残している。モニタリングする時点で記録を確認し生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアや個別で出張理美容を活用している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お好み屋食企画では利用者様の好みに合うメニューを生協で取り寄せたり、ヤクルト購入や訪問理美容の活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約による往診医の利用が多いが、家族受診時にはサマリーを提出している。医療連携は出来ているので必要な薬などは素早く用意できている。	週1回の訪問看護が入居者の健康管理や必要な処置を行っている。契約医による往診が月2回あり、24時間オンコールで対応可能である。他科への受診は基本家族対応であるが、難しい場合には職員が同行支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師に1週間の様子や変化を伝えて相談できている。処置が必要な場合などは指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に管理者が行っているため、介護職員からのコンタクトは殆どない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に考え方の説明はしている。実際に看取りの経験はない。	契約時に重度化に関する指針を説明し、同意を得ている。また、入居者の状態の変化により、都度、家族に意向の確認をしながら、方針の決定を行っている。開所以来看取りの事例はないが、看取りをテーマにした研修を行い、重度化や終末期に向けての支援について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応はマニュアルを見て動く。応急手当などは救命講習で学ぶが、定期的な訓練とまではいかない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で実施。勤務等で職員全員が参加出来ているという訳ではない。	夜勤者を含めた職員、入居者が参加し、夜間想定の人合同避難訓練を年2回行っており、その内1回は半田消防立ち合いの下実施している。また、安全対策委員会を設置し、研修時に緊急時の動きに対応できるよう確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳の保持について毎月ミーティングで話し合っている。	入居者の尊厳の保持を重んじ、言葉掛けや接遇について、毎週振り返りを行っている。早番の職員は入居者の起床時に身嗜みを整え、ご自身で出来る方でも、着衣の乱れに気付けばお声掛けし、整える等の配慮がある。また、鍵の管理が出来る方は、居室の施錠を自己で行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けする時は必ず「～か？」			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールはケアプランに基づいて作られているが、それを行う事で手一杯になっている部分もあり、柔軟性という意味では欠けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を選べる方には2者択一などで選んで頂くようにしている。髪の毛の乱れなどが見受けられる時もあるので注意したい。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片づけを一緒に行う事はできているがどちらかと言えば生活行為の維持に重点が置かれている。楽しみになるようには声掛けの工夫などは必要。	入居者個々の出来る事を把握し、調理、下配膳、食器洗い等の参加できるよう取り組んでいる。毎週水曜日は「お好み昼食」として、入居者の希望の献立を作っている。その他に、食事委員会が企画し、寿司や鰻を食べに行く等の外食イベントがある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が進まない方へは補食で補ったり、水分摂取もそれぞれの好みによって提供する物を変えたり、職員間で情報共有し取り組んでいる。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ほとんどの方が毎食後口腔ケアを行っているが、一部出来てない人もいますので業務の変更が必要。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一部利用者様にはできている。リハビリパンツを使用している方は多いので意識をもっと上げていかないと現状維持に留まる。	病院からの退院後、状態の低下が見られた方でも、オムツではなくリハパンを使用し、トイレでの排泄が出来る様、時間を決めて誘導し、立位が不安定な場合には、介助方法を検討する等、入居者の排泄の自立の支援を行っている。また、水分を1日1リットル摂取を目標とし、継続する事によって便秘の改善を促し、下剤の使用を最小限にするよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全体で水分摂取量を上げる取り組みを進めるにつれて便秘は改善傾向にある。飲み進まない方にはどのような工夫がいるか試行錯誤している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴が好きだった方には回数を増やしたが曜日や時間はこちらの都合に合わせてもっている。	週2回から3回、希望によって回数を決めている。入浴時には、1対1で話を聴いたり、一緒に歌をうたう等ゆっくりとした時間が過ごせるようにしている。また、着替えや入浴時の動作も、出来るだけ自分で行えるよう声掛けや支援を行っている。入浴後の水分補給には、スポーツ系ドリンク等、好みのものを提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠りにくい方は3名ほどいる。日中の活動を増やす取り組みはしているがうまくいかないと感じる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	指示に従うのみで、用法・用量・副作用について理解は低い。服薬方法は統一している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前楽しまれていた趣味(将棋など)は続けられるようにしている。家事を通じてしれじれの役割を担って頂く様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添う事は出来ていないが、日用品の買い出しや誕生日付近で家族様にも声掛けし外出支援している。	桜や紅葉等の花見、イチゴ狩り、初詣等の季節毎の外出の他、日常の買い物や、本人の希望の場所に行く誕生日外出等の個別の外出支援も行っている。また、今年度は、「家族交流会」では家族も参加し南知多へ出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどが事務所管理。買い物の時に支払いする時はある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	暑中見舞いや年賀状は出している。日常的にはほぼない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設えは明るくて綺麗。季節の造花を飾ったり暖簾を掛けたりしている。環境整備という部分ではエアコンの調整や窓の開け閉めが暖味になっているところがあり、注意したい。	中庭を囲んだ建物設計により、プライバシーを保ちつつ採光と風を効率よく取り込むプライベートな空間となっている。施設全体の温度が統一され、各所にフラワーアレンジが施され、明るさと共にリビングから居室まで快適な環境である。専属の職員による清掃により清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などは気の合った方同士になって頂いたり、その逆も対応している。テレビが好きな方はソファで寛いで頂いたり思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込んで頂いたり、ほとんどの方が「自分の部屋」という意識でおられる。	全室に、トイレ・洗面台・エアコン・照明器具・カーテンが設備されている。トイレ、洗面台との境は、スライドドアで仕切られている。ベッドや使い慣れた家具等は、各自で持ち込み、本人と家族と相談して配置している。夜間などの在室時は、入口扉のすりガラスと居室内のセンサーライトにて、内部の様子を伺うことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面での使いづらさはほとんど聞かれない。出来る事を活かすにはさりげないフォローが必要で、バリアフリーがすべてではない。		